

9月は世界アルツハイマー月間です

▷問い合わせ 地域包括支援センター（福祉課内）（☎223-3581）

世界アルツハイマー月間に合わせ、認知症に関する取り組みを紹介します。

認知症とは？

さまざまな脳の病気により、脳の神経細胞の働きが徐々に低下し、認知機能（記憶、判断力など）が低下して、社会生活に支障をきたした状態をいいます。

年齢を重ねると誰しも物忘れが多くなりますが、それは脳の自然な老化現象であり、認知症とは異なります。この区別が難しいため、発見が遅くなってしまうことがあります。



認知症かな？と思ったら

認知症を早期発見することで、医療機関で適切な治療が受けられ、症状の進行を遅らせることができたり、介護サービスを利用したりすることができます。

自分自身や家族が認知症と思われる症状に気づいたら、一人で悩まず、かかりつけ医や地域包括支援センターに相談してください。

地域包括支援センターには、認知症地域支援推進員が配置されていて、認知症あんしんガイドなどをもとに相談に応じています。福岡県が設置する若年性認知症サポートセンターなどの相談窓口もあります。

また、認知症の初期段階で本人や家族に関わり、適切な支援につなげる「認知症初期集中支援チーム」も設置しています。



認知症あんしんガイド

難聴と認知症

難聴になることで、人との会話がうまくできないことから、閉じこもりがちになることがあります。それにより、社会的孤立やうつが生じやすくなり、これらが重なり合って認知症の発症リスクを高める可能性があります。

補聴器購入費助成

補聴器を適切に用いることで、認知症を発症するまでの期間が長くなったり、発症率も低くなったりすることがあります。

芦屋町では65歳以上の高齢者へ補聴器の購入費用とし、5万円を上限に助成を行っています。補聴器購入前に申請が必要です。詳しくは高齢者支援係（☎223-3536）まで問い合わせてください。



補聴器購入費助成

家族が認知症になり、行方不明の心配が出てきたら？

認知症の人が外出後、行方が分からなくなった場合の早期発見や事故の未然防止のため、「認知症高齢者等見守りシール」を無料で交付しています。よく着用する衣類にアイロンで貼り付けて使用できますので、活用してください。

また、折尾警察署と遠賀郡4町・中間市の関係機関などが連携し、行方不明になった人を速やかに保護できるようにする「はいかい高齢者等SOSネットワークシステム」がありますので、心配な時は登録してください。



認知症サポーター養成講座を受講しませんか？（受講料無料）

認知症サポーターとは、「特別なこと」をする人ではありません。講座をとおして、認知症の正しい理解や認知症の人への接し方を学び、自分のできる範囲で認知症の人を温かく見守り応援するのが認知症サポーターです。ちょっとした気遣いや見守りが地域の大きな支えになります。

受講を希望する人は、町の出前講座を利用してください。地域やグループ、団体など5人以上集まれば、出前講座を申し込むことができます。気軽に相談してください。



ただ読むだけじゃない！ 家庭でできる読書活動

こどもにとって「読書活動」は、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠かすことのできないもの」と『子どもの読書活動の推進に関する法律』に記されています。このように、読書をするこどもは、こどもの世界を広げるうえで必要不可欠な活動です。ここでは家庭でできる読書活動を3つ紹介します。

①読書会

これは親子で同じ本を読み、感想を伝え合う方法です。こどもの年齢に合わせて、親がこどもに読み聞かせたり、こどもが読むのを親が聞いたり、それぞれ読書したりなどさまざまな方法で取り組むことができます。感想を交換したり、ノートに

書き留めて交換ノートのように伝えたりなど伝え方もさまざまです。

同じ本を読んでも、印象に残る言葉や場面は人それぞれです。感想を書き、伝えることで、違う価値観を知ることができます。また、「もう一度読んでみようかな」というきっかけづくりにもなります。

②図書館・本屋探検

本を読むためには、まず本を選ばなければなりません。図書館や本屋に親子で出向き、本との出会いの場を積極的につくってみましょう。インターネットでは、自分の興味のあるものしか目につかず興味が偏ってしましますが、多種多様な本を実際に見ることで、新たな興味が芽生えるかもしれません。

③読書コーナーづくり

読書に集中するためには、落ち着くことができる空間が必要です。照明や椅子、クッションなど、心地よい空間を親子でつくってみましょう。本棚はこどもが手の届く高さに設定し、いつでも好きな時に読めるようにすることが大切です。季節を感じるこどものできるものを飾りつけたりすると、こどもの興味を引くことができます。家庭での読書活動の形は、無限大にあります。ライフスタイルやこどもの興味などに合わせて、読書を楽しめる方法を見つけてみませんか？

リーど通信 No. 58

リーどぼらんていあキッズ大集合！ 今年も活動を始めました

ボランティア活動センターでは、こどもたちの社会力向上などを目的とした「リーどぼらんていあキッズ事業」を行っています。

令和7年度は定員いっぱい25人で活動することになりました。

●第1回 「活動結成式・保護者説明会」(6月15日)

欠席者や遅刻者もなく25人のキッズと保護者など24人が出席しました。初めて

ボランティア活動を経験する参加者も多く、ボランティア活動の基本的なルールや活動内容などを学び、1人ずつ前に出て自己紹介を行いました。

やや緊張した面持ちのなか、しっかりと自己紹介ができていました。



▽問い合わせ
ボランティア活動センター
(☎ 2 2 1 - 1 0 1 1)

今年度も全7回の活動を予定していて、キッズもどんな活動をするのかとても楽しみにしている様子でした。

●第2回 「芦屋漁港、遠賀漁業協同組合芦屋支所での魚の水揚げ・選別支援作業」(7月24日)

体験研修では、漁業の大変さや、環境を守ることの大切さを学ぶことができました。



3月に行う活動報告会・修了式に向かって、ひとまわり成長した研修生の姿を皆さんに見てもらえるように、研修生も職員も頑張ります。